

2015.7.27 三校合同研修会について一報告書ができあがりました。

毎年、ゴールデンウィーク明けの最初の土曜日に本学院では三校（京都ノートルダム女子大学・ノートルダム女学院中学高等学校、ノートルダム学院小学校）の教職員が集い、研修を行っております。

今回は、『ノートルダムのグローバルとは』と題して、京都大学の塩瀬隆之先生をお招きし、一部の教職員のみが考えるテーマではない、本学の教職員全体が自身で語るためのきっかけをつくる講演・ワークショップを半日間していただきました。

講演では、「はたらく」という言葉について、意味が反対の言葉・意味が近い言葉を3つずつ並べることで、その人の「はたらく」ことへのイメージを顕にするワークショップから始まりました。我々の物事への理解は、自分の経験に置き換えながら、意味も揺れ動きながら積み重なっていくことがよくわかるお話でした。

後半は、時代の要請に応え、貢献する力つまり、「生きる力をデザインする」力が求められていること、「正確に記憶し、正確に反復する仕事」がロボットに取って代わられている現実を踏まえ、子どもたちは何に競争・努力・集中すべきであるのか未来を念頭において考える必要があること・・・様々な事例と共に私たちの周囲の状況が示されました。

第2部では、「ノートルダムにとってのグローバルを語る言葉」などを一緒に考える作業でした。参加者220人余が同じ会場で、校種別4人組みで座り、話したことをスケッチブックに書き込み、それを小学校、中高、大学のグループに回していくという方法でした。皆が積極的に楽しく参加でき、校種の異なる教職員の考えも知ることのできる興味深い作業でした。

この日、結論が出たわけではありませんが、「違うことをゆるし、包み込む力」が今の世界で生きる上で、何より大切なことだという講師のまとめの言葉を今後の「ノートルダムのグローバル教育」を深めていく上で十分に意識していきたいと思えます。

日々の教育活動に加え、このような研修が教職員と共にノートルダムの魅力をより鮮明にできる契機となることを望み、期待しております。

理事長 和田 環

